

Olympic  
Movement

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

福岡県 北九州市立熊西中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリムピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

■期 日：平成30年11月30日（金）

■ク ラ ス：2年1組（32名）

■オリンピアン：荻原 次晴 先生（スキー・ノルディック複合）【出場オリンピック／長野大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



・自己紹介の後、東京2020大会に触れ、名称は東京オリンピックであるが各地で競技が行われ、また事前合宿等で北九州市やここ黒崎にも各国・地域の選手がトレーニングをしに来る可能性もあることから、日本オリンピックであり、この機会にオリンピックを身近に感じてほしい。スキー・ノルディック複合競技について、スキージャンプとクロスカントリースキーを合わせた競技であること等を説明し、得意だったスキージャンプに絡めて、今日は皆にもジャンパーになってもらいたいと伝え、運動の時間はロープジャンプ(8の字跳び)を行うと予告し、準備体操に移る。

## 3. 主運動



・8の字跳びを実施。90秒間で跳べた回数を競う。  
・実施前には、頑張ろうという気持ちを込めてチームの仲間と握手、次にお互いの健闘を誓い合って相手チームと握手を交わした。

## 4. まとめ



・ゲームはやってみないと分からない、楽しい面があれば難しい面もあるのがスポーツであり、それがスポーツの面白さである。ホワイトボードに掲示したオリンピックバリューの3つの言葉を指しながら、次の座学の時間はこの3つの言葉を通じてオリンピックについて一緒に考えていきたい、と予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら自己紹介し、長野大会に兄弟で一緒に出場した双子の兄がいることや競技について説明する。
- ・オリンピックにはオリンピックバリューという3つの言葉があり、自身の経験を踏まえ感じたことを伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：学校生活を振り返り、オリンピックバリューを感じるのはどのような瞬間か考えてみよう。
- 発表：テストや部活動で良い結果が出た時、努力した成果が出た時、野球でホームランを打つことができた時、サッカーで得点を挙げる事ができた時、部活動で褒められた時(エクセレンス)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピック人だけではなく、見る人、応援する人、関心を持った全ての人と共有できるものであり、今日はそのオリンピックバリューについて皆に学んでもらおうと思い、この教室に来たが、皆の発表を聞き、オリンピックバリューは既に皆の心の中に既に存在していることがわかった。この先の人生で嫌だなと思うことがあるかもしれないが、その時こそ自分が一番成長する瞬間であり、諦めずに努力してほしいと伝え、授業終了。

# 実施内容

■期 日：平成30年11月30日（金）

■ク ラ ス：2年2組（33名）、2年3組（32名）

■オリンピアン：小塚 崇彦 先生（スケート・フィギュアスケート）【出場オリンピック／バンクーバー大会】



■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、オリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、最後まで諦めない、全力で頑張る」「フレンドシップ＝友情、1つの運動が終わる度に周りの皆とハイタッチで称え合う」「リスペクト＝尊敬、尊重、感謝、ルールを守る」と説明し、オリンピアンはこの3つの言葉を大切にしており、皆も頭に入れて今日の授業に取り組んでほしいと約束し、準備体操に移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・大縄跳び(全員跳び、8の字跳びから選ぶ)を実施。  
・各チームが様々な作戦で取り組んでおり、作戦が上手くいかなかったチームもあったが、どうすれば他のチームに勝てるかを考えることがスポーツの駆け引きや作戦であると伝えた。

## 4. まとめ



・縄に引っ掛かってもすぐに次を始める、全力で取り組む、体だけでなく頭も使って考える、相手の意見を聞く、お互いの健闘を称え合う、ルールを守る等、運動の時間を通じて皆がオリンピックバリューを実践できていた。次の座学の時間はどのような過程を経てオリンピックに辿り着き、臨んだかを話すので、運動の時間の内容を忘れずに取り組んでほしいと伝え、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックシンボルの意味を生徒に尋ね、オリンピックの父としてクーベルタンを紹介。オリンピックバリューという3つの考え方があるからこそ、オリンピックには価値があると話す。
- ・バンクーバー大会のショートプログラムの映像を見せながら、フィギュアスケートという名前の由来やジャンプ、スピン、演出等について解説。

3. グループワーク



- 個人発問：運動の時間感じたことを、3つのオリンピックバリューに当てはめて具体的に書き出してみよう。  
 グループ発問：クラスマッチに向けて今日学んだ3つのオリンピックバリューをどのように活かせるか考えて、班で共有しよう。  
 発表：負けている状況でも諦めない、相手に感謝し、全力で戦う(エクセレンス)。互いに助け合えるチーム作りをする、試合が終了したら、笑顔でハイタッチをする(フレンドシップ)。一人がミスしても責めない、相手チームに挨拶をして尊重する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・運動の時間同様に、皆が一緒になって取り組むチームになってほしい。得意な人が苦手な人に教えてあげることも作戦である。仲間と毎日頑張り、支え合い、ルールを守って試合に挑んできたのがオリンピックである。今日考えた色々なことを思い出しながら、スポーツや勉強でも、どれだけ努力をするか。オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活や学校生活にも関係しており、今後の人生でもそれを忘れず色々なことに挑戦してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真  
2年1組



2年2組





■ 集合写真  
2年3組



■ 記念品贈呈  
2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了証贈呈

